

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-141	14-308	慶應義塾大学
題名(原題/訳)		
Bupropion-SR for smoking reduction and cessation in alcohol-dependent outpatients: a naturalistic, open-label study. アルコール依存症外来患者の喫煙の減少と中止のためのブプロピオン SR: 観察的非盲検試験		
執筆者		
Karam-Hage M, Robinson JD, Lodhi A, Brower KJ.		
掲載誌		
Curr Clin Pharmacol. 2014 May;9(2):123-9.		
キーワード		PMID
ブプロピオン、喫煙、アルコール依存症		24218993
要旨		
<p>背景: 我々は、アルコールから早期回復でいるアルコール依存症(AD)の喫煙者で、持続性ブプロピオン(ブプロピオン SR)が喫煙を減らして、禁煙を促進するかどうかを検討しようとした。</p> <p>方法: 我々は、外来患者治療プログラムで登録された AD 喫煙者の間で、非盲検観察的な研究を行った。治療群(n=58)には、ブプロピオン SR と短い禁煙カウンセリングが提供された。対照群(n=57)は、年齢、性、民族性、タバコ使用と長年のアルコール依存症によって治療群とマッチさせた。対照群は、禁煙介入を受けなかった。我々は、登録の後6ヶ月間タバコとアルコールの中止に関するデータを集めた。</p> <p>結果: 治療群の参加者は、フォローアップの時点のいずれにおいても、対照群より喫煙を控えていた。対照と比較して、治療群はベースライン、30日と180日のポスト試験開始時により少ないタバコ本数/日を吸った。これらの所見は、可能性がある共変量のために調整された後にも持続した。</p> <p>結論: ブプロピオン SR は、最近禁欲的な AD 個人のために喫煙をやめるか、減らすために有効である可能性がある。</p>		